

この沢の特徴は、沢床が茶褐色のうえ、沢全体が暗く、水面下の状態がつかみにくい事だ。さて、滝を見ないまま1時間、岩の間に裏切られたという表情がはっきりとうかがえる。

7:05 ゴルジュらしきところに出る。ここを大きく左に曲がると、80m のナメ。
8:00, 15m の滝。水量が少ないため、ただナメ状になっているだけで、残念だ。
以下ナメが続く。9:15 沢にだいぶやぶがかかってきた。廻行を打ち切り、やぶをこいで登山道に出る。

(記)

出合(6:00)——終了(9:30)

飯豊 桧山沢

1981年8月13～16日

L:

8月13日 福島(19:30)——温身平(22:30)

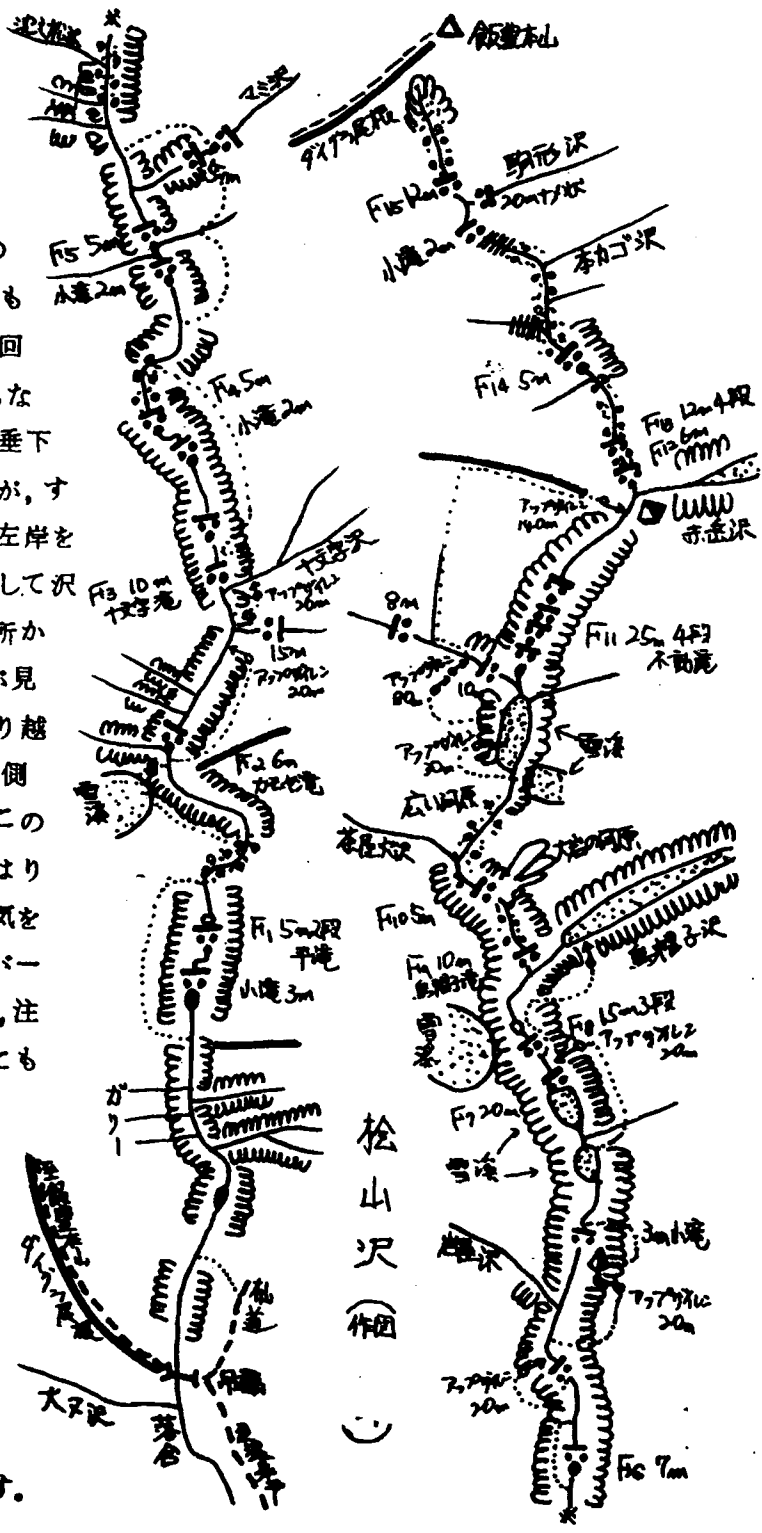
夕食後福島を発つ。22時30分温身平到着。車内にて仮眠する。

8月14日 温身平(5:10)——落合(5:35)——入溪(5:50)——
十文字滝(9:40)——マミ沢出合(12:35)——沈み松沢出合(14:00)——
ビパーク地(16:20)

身仕度を整え5:10温身平を出発。梅花皮沢にかかるつり橋を渡り落合へ。桧山沢にかかる檜山大橋から入溪。この檜山大橋は、数年前にかかっていたところより少し下流に立派になってかかっている。

取付は扇状の淵となっている。左岸よりとりつくが、少しへつった所で小滝が現われ、兩岸が立ち深いため、へつることも漕ぐこともできず捲く。捲いていくと左岸に仕事道らしいはっきりした踏跡がある。川原にもどり、右、左と、渡渉やへつりをくり返して廻行する。正面にF1 2段の滝が現われる。これは取付けず、右岸側壁上部を低く捲く。捲いて沢にもどった所はゴロの川原。ここで一息いれ、身仕度を点検し、また廻行を再開する。ほどなく沢は左に曲り、右岸に雪溪が現われる。ここもへつれず、雪溪上を捲き沢にもどる。もどるとすぐにF2 6mがあらわれる。

ここも取り付け
 ず、左岸を捲くが、
 滝の上部のブッシ
 ュ帯より沢筋を見
 と、ほぼ直線的な長さ
 にして200m ぐらいの
 ゴルジュ帯だ。降りても
 日程的に苦しいし、今回
 は完全週行が目的でもな
 いので続けて捲き、懸垂下
 降にて沢身にもどる。が、す
 ぐにへつれなくなり、左岸を
 捲き、十文字沢に懸垂して沢
 身にもどる。もどった所か
 らF3 10m 十文字滝が見
 え、この滝は滝右を登り越
 える。次のF4は、左右側
 壁が悪く左岸を捲く。この
 捲きは、スラブに草がはり
 ついたような草付で、気
 をつけねばならず、トラバ
 ースでもすべりやすく、注
 意が必要であった。沢にも
 どると少しオーロの河
 原が現われ、その先ま
 たへつりのくり返し
 となる。F5も取り
 付けず、左岸を捲く。
 そして、マミ沢を渡り
 大きく捲くことになる。
 沢身にもどり、しばらく
 へつりと渡渉をくり返す。



左より沈ミ松沢が入り込んでくる。そしてF6 7m。この滝は右岸側壁にある残置ハーケンを利用して、滝左下で確保してもらいながら、一度下り、登り返して越える。また、へつりと渡渉のくり返しである。小滝が現われる。左右とも悪く、右岸の岩溝を強引に捲き、懸垂で下りる。すぐ左岸に渡り、又捲いて沢身にもどる。ここより岩屋沢を遠望、滝が見える。初日でもあるし、時間も時間。場所をよいので、今日はここで行動中止。幕営にかかる。

8月15日 晴。 幕営地(6:05)——鳥帽子沢出合(8:50)——糸屋穴沢出合(10:10)——広川原(10:30, 11:00)——カゴノ沢出合(14:00)——赤岳沢出合・ピバーク地(17:15)

6時05分、幕営地出発。体もあつたまっていないので、漕いでもいける所であったが、小滝を左岸より捲く。沢身にもどり、へつりと渡渉をくり返す。やがて、入溪後はじめてのスノーブリッジ。2つ続く。1つ目はブリッジ上を歩き、そのまま左岸のガレに上がる。2つ目はそのまま捲いて、ブリッジ左岸ぎわに懸垂し、ブリッジのつけ根よりF7 20mの右正面壁のバンドに取り付き越える。すぐにF8 15mが現われ、それを越えると鳥帽子沢との分岐となる。本流は分岐の所にF9 10mの鳥帽子滝をかけ、鳥帽子沢は雪溪にうまっている。F9はチョックストーン滝で取り付けず、左岸を捲いて一度雪溪に降りてから滝右を乗り越える。越えた所でイタドリの若芽を見つけ、夕食の楽しみとする。これより上部は大岩の河原が続く。そして、糸屋穴沢出合より少し上部からは広々とした河原となる。ここで昼食とし、後半のため身仕度をととのえる。

広河原より沢は左に大きく曲がり、大きなスノーブリッジをかけ、せまいゴルジュをなして先がどうなっているかよくわからない。右岸を高捲きし、スノーブリッジに降りてみるが、先の方で行きずまり、また右岸を捲く。高捲きの途中で沢をのぞくと、本流は3段の不動滝を落して悪場をなしている。カゴノ沢にいったん降りて、ここをカゴノ沢F1までつめ、左岸からのカレ沢を登って、尾根に登り、不動滝上部のゴルジュもいっしょに捲いて、赤岳沢・本カゴ沢出合直下の本流に、やぶこぎと、140mの懸垂で降り立つ。今日の行動はここまで。ピバーク準備にかかる。

8月16日 晴。 幕営地(6:00)——本カゴ沢・扇形沢出合(7:30)——响形沢・入カゴ沢出合(8:00)——ダイグラ尾根(10:45)——飯豊本山(11:10, 11:40)——休場の峰(15:40)——落合(17:45)——温身平(18:10)

6:00幕営地出発。すぐに赤岳沢(檜山沢本流)と本カゴ沢出合につく。本カゴ・

沢は出合に6mの滝を落とし、その上に4段12mの滝を続けて落している。これを越えると大岩の河原となり、石越えの連続である。その先F14 5m(本カゴ沢F3)は、右岸の草付を強引に越える。本カゴ沢・駒形沢出合付近からは石も小さくなり、河原となっている。左岸がなだらかな側壁をなしているのと対比的に、右岸はガレている。小滝を越えると、左岸からナメ滝が落ち、上部はブッシュである。2日間の緊張がほぐれたせいもあって、これが駒形沢と入カゴ沢の分岐とは気づかず、また確認もおこたったまま、予定の駒形沢でなく、入カゴ沢に入ってしまった。これより沢(入カゴ沢)は、トヨ状15mの滝を落とし、水量も減り、ついにはカレ沢となってダイグラ尾根登山道へとつきあげている。

今回の山行の目的の1つは、沢筋からのピークハントでもあったので、11:10飯豊本山にたつ。下山路はダイグラ尾根を使用。17:45落合に下山。18:10温身平に着き、山行を終える。

(記。)

飯豊・大白布沢

1981年9月13～14日

L

9月13日 雨のち曇。 福島(7:00) ^③ 御沢(10:20, 10:40)——入溪(11:15)——下ノモグラ沢出合(14:10)——~~殺~~登山道(16:45)——三國小屋(17:20)

御沢には予定より早く着いた。車を置いて出発。砂防ダムの先で右岸に渡り、歩道が再び沢にもどった所より入溪。

すぐ小滝があらわれ、ゴルジュとなる。F1 6m。右岸のガリー状を捲く。西さんは右岸をトラバース気味に登ったが、かなりきつかったようである。3m小滝を越えるとF2 20m上部ナメ状の滝。左岸に登る。ザックをつけたまままだときついでから身で登り、ザックを引き上げる。滝の途中にて小休止して昼食。この先は平凡な河原状となる。

左岸から右岸へ先ほどの道が横切っている。右岸に小屋跡らしいものがある。沢が右に曲がり込んだ所にF3, 4, 5と続いている。F3 8mのところ、左岸に